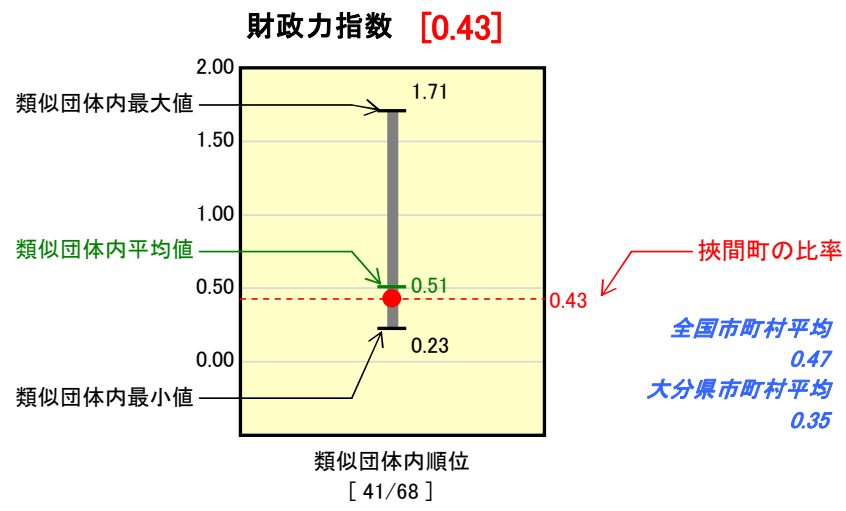


# 市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

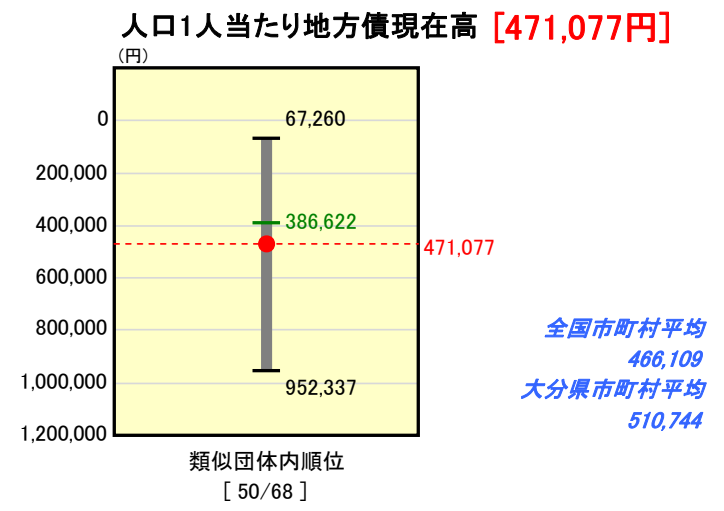
## 大分県 挾間町

人口	15,532人(H17.3.31現在)
面積	51.10 km <sup>2</sup>
歳入総額	5,256,941千円
歳出総額	5,045,263千円
実質収支	71,705千円

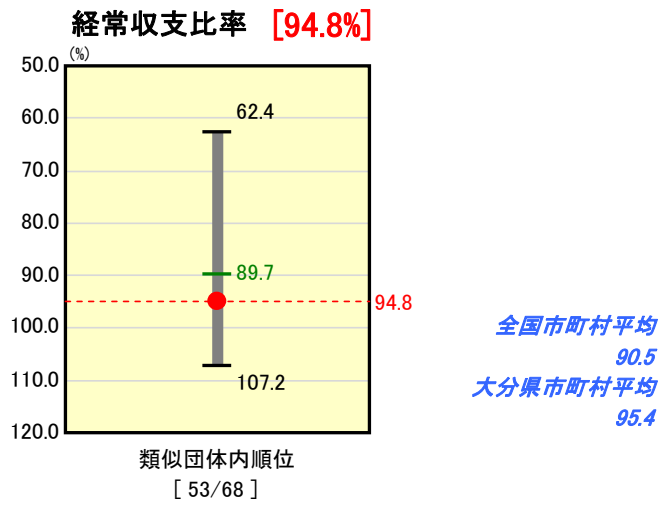
### 財政力



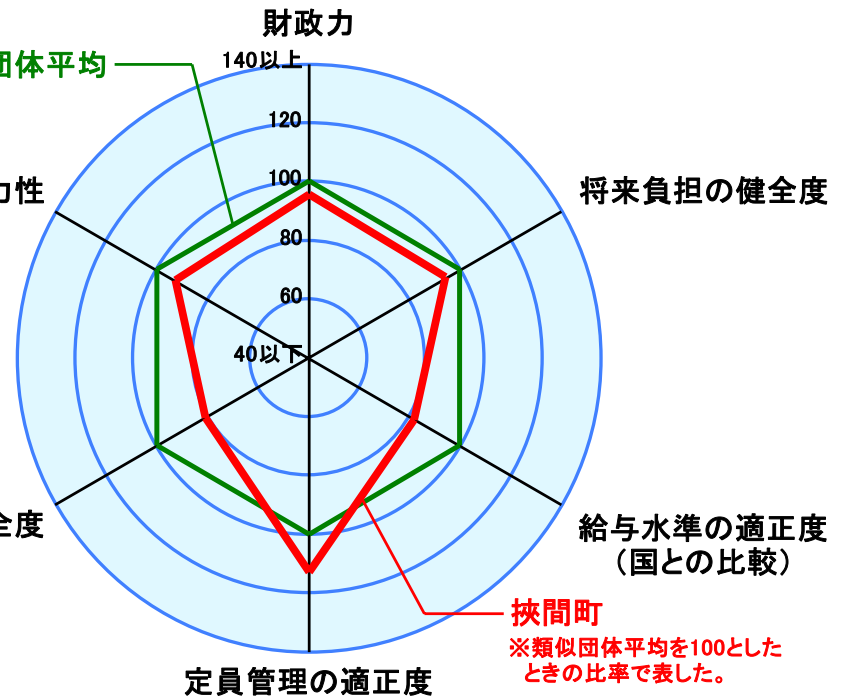
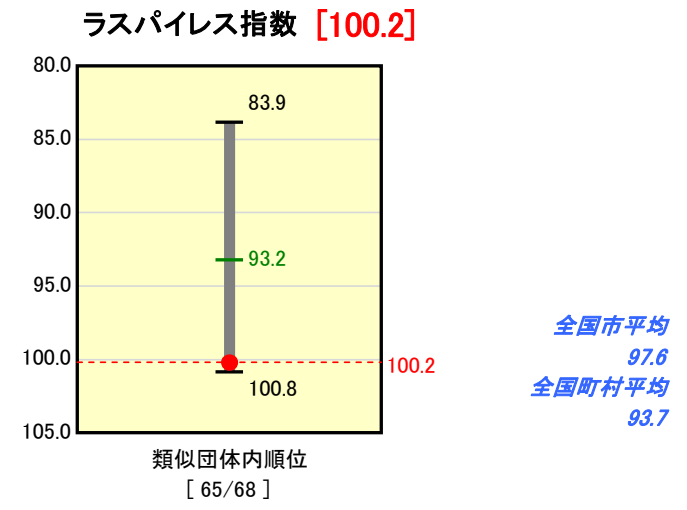
### 将来負担の健全度



### 財政構造の弾力性

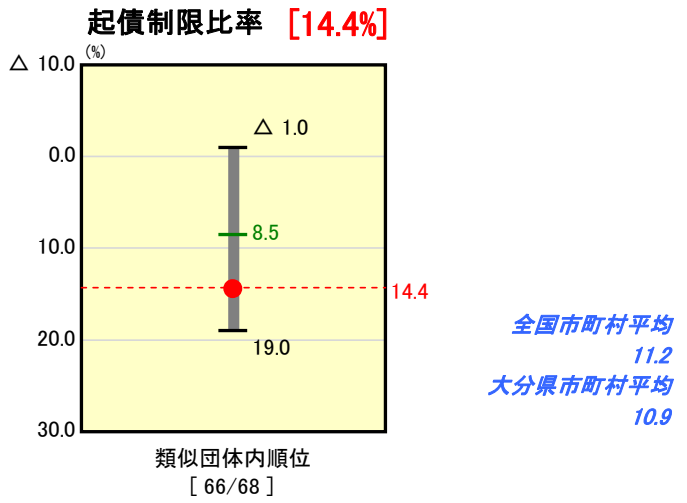


### 給与水準の適正度(国との比較)

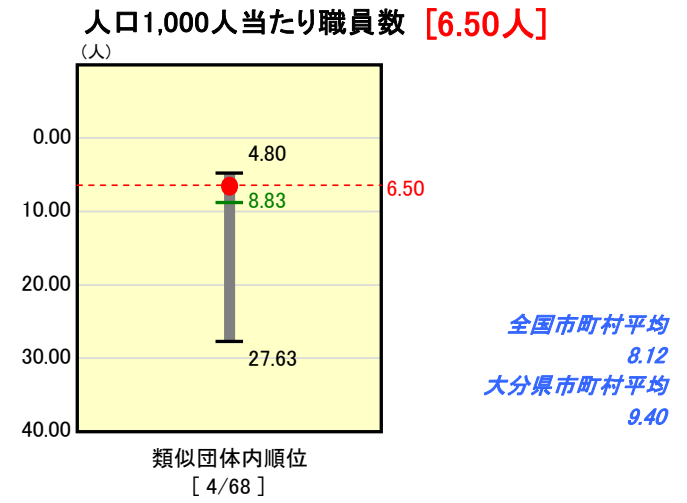


※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

### 公債費負担の健全度



### 定員管理の適正度



### 分析欄

【財政力指数】平成16年度の財政力指数は0.43であり近年上昇傾向(平成14年度から0.045上昇)ではあるが、これは臨時財政対策債の発行に伴う普通交付税の大幅な減額が最大の要因であり決して財政力の硬直化が改善されている訳ではない。しかしながら、景気低迷中、人口増加のため個人住民税が微減(△2.0)に止まったこと、固定資産税が微増(1.6)していることで一定の歳入を確保していることは数値上昇の一要因といえる。今後は過年度を含めた税収の徴収率の向上と人件費の削減・投資的経費の徹底精査を行い、財政の健全化を図る。

【経常収支比率】公債費の償還ピーク(H13・H14)を超えたため、近年は0.5程度の上昇に止まっているが今後は地方交付税・補助金等が大幅に削減し、扶助費・繰出金の増額で数値の上昇は避けられない状況である。今後は、人件費・経常経費の削減と特別会計における歳入確保を積極的に取組み繰出し金の徹底抑制を図り、公債費適正化計画に準じて借入限度額を遵守する。

【起債制限比率】決算額の2割を超える10億円超の償還ピークを越え、今後の当該数値は微減していく見込みではあるが、依然として高等数値であり県下でも最悪の様相を呈している。今後は公債費適正化計画を遵守し、事業の徹底精査で起債の発行を極力抑え、後年度負担を軽くするよう努める。

【人口1人当たりの地方債現在高】過去に実施したリーディングプロジェクト事業(はさま未来館建設事業:起債発行30億円超)をはじめとした単独事業のため公債費関連の数値は全て危険値であり類似団体平均も大きく上回っている。今後は、当該数値を前年対比で確実に5%以上減少させるため、建設事業債の発行を4億5千円以内に抑制するよう努める。

【ラスパイレス指数】職員構成の変動と昇格改善制度の影響で全国町村平均を上回っており、県下でも高い水準である。今後は昇格改善制度が終了し、危機的な財政状況を回避するための人件費の縮減策等で当該数値の低下を図りたい。

【人口1000人あたりの職員数】財政状況を考慮して平成14年度以来、定年退職を完全補充せずに定数減で行政運営を行ってきたことが要因と思われる。現在は定数6名減であるが、今後も現状維持を基本に多種多様な住民のニーズに応え、人員配置の見直し等で職員不足に対応していきたい。